

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	飯田市こども発達センターひまわり			
○保護者評価実施期間	6 年 12 月 13 日		～	7 年 1 月 10 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数)	44
○従業者評価実施期間	6 年 12 月 13 日		～	7 年 1 月 6 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	24
○事業者向け自己評価表作成日	7 年 3 月 4 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の研修の充実	定期的な研修の開催、外部研修に参加している 幅広い研修内容で計画をし、支援のスキル向上につながるよう参加の機会をつくる	活動プログラムの為の遊びの研修、家族支援に関する研修を検討する。 視覚支援等、保護者と職員が共有できるような研修方式も検討していく。 研修したことを、保護者と共有できるような機会を作りたいと考えている。
2	非常時の対応についての対策	非常時、ヒヤリハット、再発防止対策等は全職員ですぐに共有、対応している	引き続き、迅速に全職員で共有し、安心、安全に過ごせるよう取り組む 必要に合わせて、保護者と情報共有をする。
3	ガイドラインの5領域に添った個別の発達支援・個に合わせた環境や支援の充実	スケジュールや構造化、視覚支援を活用し、個々に合わせた支援を行っている こどもの姿をふりかえりながら、個別支援計画の作成、検討を行い、PDCAサイクルでのチーム支援の実践につなげている	個々のペースに合わせた時間・環境やスペースの確保の工夫等、更なる支援の充実につなげる 職員1人1人の発達支援、家族支援に対するスキル向上につながる研修の実施及び参加
4	親子通園の実施	こどもを目の前にした保護者との姿や支援の共有、親子通園の時間を活用した対面相談等が、支援の実践に繋がっている。 保護者からも、親子通園の中でこどもと向き合うことで、こどもの成長や姿の理解、こどもとの今を大切にしていきたい、などの感想をいただいている。	活動の際に予想される姿を実際に見ながら保護者と共有して、支援の実践につながるよう、親子通園の場面で手立ての共有、実践、振り返りを実施する。保護者の実状に配慮しながら、保護者とのコミュニケーションを積極的にとり、親子通園の更なる充実を図る。
5	活動プログラムの立案の充実及び工夫	担任間および職員間で活動プログラムを共有し、チームで活動の立案、素材の工夫をしている。	更に活動や支援の充実につながるようチームでの相談・検討・共有をする。活動プログラムの広がりにつながるよう県内の児童発達支援センターの情報交換会等で、話題にしている。
6	事業所内に専門の職員が配置されている	各クラスに事業所の専門スタッフが入り、アドバイスの助言をいただける。 保護者が、直接話し、場面に合わせた対応を専門的な視点での相談をすることができる	事業所内専門スタッフがクラスに入る回数、時間の工夫をする
7	クラス編成がされている	発達のタイプ別のクラス編成により、クラスの少集団の中で環境整備を過ごさせている。安心した環境の中で、友だちへの興味、関心が広がり、自分のペースで人とコミュニケーションをとる姿につながっている	小集団のクラス編成を活かし、安心、安全な居場所の確保、人と関わることが安心と感じる経験を積み重ねられるよう個々に合わせた支援の充実を図る。
8	丁寧な移行支援	外部から、丁寧な移行支援が、その後につながっているという話を聞く機会が多い。園、学校の見学から同行し、移行園決定後の交流にも同行、また関係者会議での情報共有に取り組んでいる。	移行後の卒園児フォローの充実について検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	廊下の暑さ、寒さ対策	施設の老朽化に伴い、暑さ対策、床暖房がきかない所がある	一つ一つの環境について、施設改善及び対策を検討する
2	人員確保・人材確保が難しい	代替確保の難しさ	学生へ事業所のアピールをし、人員確保につなげる 職場体験の充実、保育家庭課と連携し、職員確保の情報を共有していく。
3	事務量の多さ・業務時間の超過等の改善が必要	必要な業務内容について見直している(PCの不足等)	R7.4～システム導入予定。保護者へのサービス向上に合わせて、事務内容の見直しをし、業務時間の効率化につなげる
4	個別支援計画に沿った支援の実践について、保護者との共有や共通理解につなげる時間の確保	親子通園を活用して、支援や子どもの姿の理解、共有につながるよう意識はしているが、面談など時間の確保が難しく、保護者の満足に繋がりにくい場面がある。	システム導入をする事で、支援内容について、毎日保護者が確認できるようになる。 システム導入に際し、変化に不安になる保護者もいるので、その都度安心につながる丁寧な返答、説明をする。
5	支援プログラム・ガイドライン等の情報開示	保護者アンケートを見ると、保護者が、どんなものなのか分かりにくい様子がある	新年度の説明、懇談会等、保護者への説明の際に、何度かプログラム、ガイドラインについて話題にする機会をもつ。 保護者が確認しやすいように配布や掲示をし、職員にも周知する